

サトイモの生育初期灌水による増収技術

埼玉県は産出額全国1位のサトイモの産地ですが、作付面積が減少傾向にあり、産地振興のためには収量を向上させる必要があります。しかし、サトイモの増収技術に関する研究の蓄積は全国的にも少なく、特に子芋の着生等に関する研究は乏しい現状にあります。

そこで、生育初期(子芋の着生時期)の灌水について検討したところ、5月中旬～6月上旬に20mm(20リットル/㎡)の灌水を3回程度行うことで、子芋が早く着生しました。また、それに伴い、孫芋の着生も早まり芋の肥大期間が長くなったため、商品性の高い3L～Lサイズの芋の収量が多くなりました。

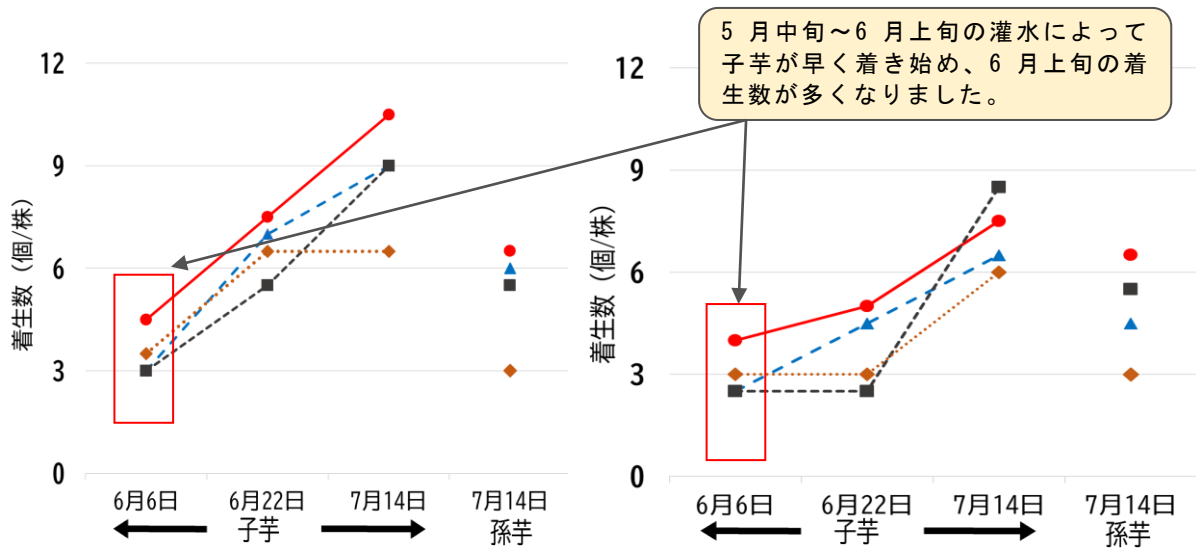


図1 芋の着生数の推移 (左：土垂、右：蓮葉芋)

● 5月中旬～6月上旬区 ▲ 6月上旬～6月下旬区 ■ 6月下旬～7月中旬区 ◆ 無灌水区
 ● 5月中旬～6月上旬区 ▲ 6月上旬～6月下旬区 ■ 6月下旬～7月中旬区 ◆ 無灌水区

収穫時の子芋の着生数は同程度ですが、孫芋以上の着生数がやや多くなりました。

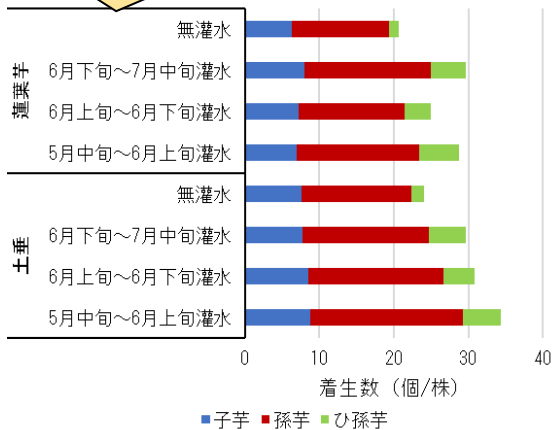


図2 収穫時の芋の着生数 (高収益畑作担当)

5月中旬～6月上旬の灌水によって、子芋が早く着いたことで孫芋も早く着き、芋の肥大期間が長くなったため、3L～Lサイズの大きい芋が多くなりました。

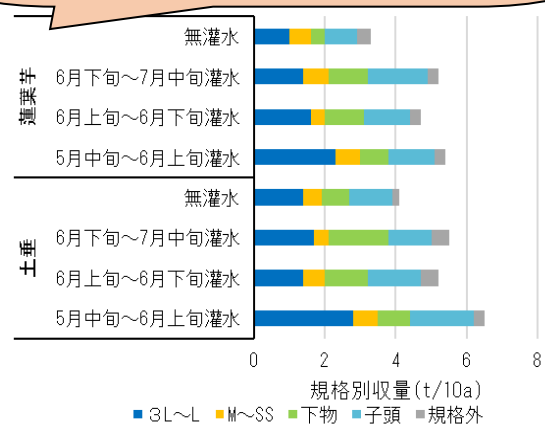


図3 芋の規格別収量 (高収益畑作担当 TEL 048-536-0442)